



民進党

号外 静岡3区版

平成28年11月1日

民進党 民進プレス編集部

〒100-0014

東京都千代田区永田町1-11-1

電話03-3595-9988(代表)

press@dpj.or.jp

<https://www.minshin.jp>

明日の日本 生活が第一

静岡県第3区総支部版

民進党静岡県第3区総支部 総支部長 小山展弘

〒438-0078 静岡県磐田市中泉656-1

電話 0538-39-1234・FAX 0538-39-1235

e-mail : n_koyama@aroma.ocn.ne.jp



衆議院議員 民進党静岡県第3区総支部長

こ やま

展 弘

小山のぶひろ 氏に聞く

Q 中東遠地域には、二宮尊徳の「報徳思想」が現代も息づいています。二宮尊徳の考え方をどのように生かすべきでしょか。

A 幕末の農村復興に活躍した二宮尊徳は、自らの教えを人民の勤耕にあり」と説いています。これは「田畠の実りや山林の恵みは、人々が眞面目に働くからだ」という意味です。大日本報徳社社長の榛村純一先生は、「田畠の実りや山林のみは殿様や武士のおかげと考えるのが常識の時代に画期的な主張をした」と仰っています。

安倍総理は、「アベノミクス」なるものによつて良い結果が出たと主張してきました。しかしながら、株価の上昇や円安傾向によるところもあるのではないかでしょうか。また、リーマンショックや東日本大震災を底とした、民間経済や国際金融の動向要因によるところもあるのではないかでしょうか。また、リーマン復傾向、それを示した経済指標をとらえて「アベノミクスの成果」と喧伝してきました。仮に「アベノミクス」なるものの効果があつたとしても言い過ぎであり、謙虚さに欠ける姿勢ではないでしょうか。加えて地方経済は疲弊し、「アベノミクスの恩恵は感じられない」という声を聽きます。恩恵を受けているのは一部の人たちだけなのです。「日本の繁栄は国民の勤労にあり」というような経済政策に対する謙虚な姿勢を持つたうえで、いかに勤労者の実質賃金を増やし、中小企業経営者や個人事業主の皆様も含めた国民全体の所得を増やし、日本経済の60%近くを占める個人消費を伸ばす政策を考えしていくべきです。

二宮尊徳は、それぞれの長所や美点を活かし、徳に対しても徳を以つて報いる「報徳」、分限に合わせて節約を求めると同時に余剰については助け合いのために互いに供するべきとした「分度・推讓」など、様々な言葉や農村復興の仕法を残していくまです。それらは、財政再建や人口減少対策、マーケットの縮小などの現代日本の様々な問題に対する解決のヒントを与えてい

報徳立国・日本を創ろう!

Q 「保守」や「保守政治」についてどのような認識を持つてありますか?

A 「保守」にはいろいろな定義があります。伝統・文化を守ることと認識する人もいれば、市場競争を政府の介入から守ることと認識する人もいます。「土着の保守」とイデオロギーの保守」と分類する人もいますが、私はこの分類には共感します。土着の保守の姿勢とは、理論理屈や主義にとらわれることなく、現場にとつて最も適合する政策を行おうとする姿勢であり、現行制度の良い部分も評価することではないかと思います。

現在の安倍政権の姿勢は、少なくとも「土着の保守」の姿勢ではないと思います。昨年の農協法制度変更については「全国監査機構の廃止と監査法人化」といった形式を変えることで問題がすべて解決されるように認識しております。集団的自衛権についての議論や派遣法改悪についての議論でも同様の姿勢が見られました。現行制度がうまく機能しているのに理論や理屈に合わないから変えてしまう、あるいは、変化を求める人たちにアピールしたいがために「変えること自体が目的」となっているのではないでしょか。現実を理屈に合わせていこうとする姿勢はまさに、「イデオロギーの保守」であり、安倍さんは「国粹をイデオロギーとした革新」とでもいうべきものではないかと思います。

何を「保守」すべきなのか。私は70年間の平和と経済的繁栄を築いてきた、戦後の価値や現在でも機能している仕組みこそ、再評価し、「保守」すべきだと考えています。戦後の歩みを全否定し、「戦後を変えること」 자체を目的とすべきではありません。時代に合わない部分については修正をしていくという姿勢こそ求められていると思います。現場・現実を正しく評価し、「改革」「修正」する姿勢こそ、本来の「保守」の政治姿勢であると思いますが、私はこれを「現場からの保守」の姿勢と申します。時代に合った現実に向き合っていくべきだと思います。

るようになります。「二宮尊徳の報徳思想を活かしつつ、一人一人が役割と生きがいを持つて生きることができる共生の社会、「報徳立国・日本」を目指していきたいと思います。

「協同・連帯」 「共生・安心」 の社会を創ろう



小山のぶひろプロフィール

1975年 12月26日掛川市(旧小笠郡大須賀町)生まれ 磐田育ち
1982年 大須賀町立横須賀幼稚園 卒園
1988年 磐田市立磐田西小学校 卒業
1991年 磐田市立磐田第一中学校 卒業(水泳部所属)
1994年 静岡県立磐田南高等学校 卒業(弓道部所属)
1999年 早稲田大学 政治経済学部 政治学科 卒業
2001年 早稲田大学大学院 政治研究科 修士課程 修了(政治学修士)
農林中央金庫(JAバンク)入庫(2006年退職)
2006年 松下政経塾 入塾
日本公共政策学会入会
2007年 民主党静岡県第三区総支部長 就任
2009年 第45回衆議院議員選挙にて初当選
2013年 静岡理工科大学 非常勤講師(2014年まで)
2014年 第47回衆議院議員選挙にて当選(2期目)
現在 農林水産委員会、災害対策特別委員会、議院運営委員会に所属
衆議院農林水産委員会理事
民進党政務調査副会長
民進党国会対策副委員長
協同組合振興研究議員連盟 事務局長
二宮尊徳思想研究議員連盟 事務局次長
お茶振興議員連盟 事務局次長
連合組織内議員懇談会 事務局次長
全国農団労 組織内議員
磐田市在住

- 著書…「脱占領時代の対中政策」
-戦後の日本は中国とどう向き合ったのか-
- 尊敬する人物…石橋湛山、二宮尊徳、石田博英、徳川家康
- 趣味…カラオケ、B級グルメ巡り、温泉巡り、弓道(式段)、水泳
- 好物…カレーライス、とんこつラーメン
- ニックネーム…コンちゃん

● 国民の所得向上、個人消費の増加

国民の所得が増え、「生活」が安定してこそ、GDPの約6割を占める個人消費が持ち直し、経済も成長します。税制や給付等を通じ、所得再配分政策をすすめ、国民の所得、特に働く世代、若い世代の所得が増える政策を進めます。

● 社会保障制度の信頼回復

消費税の使い途は自動車取得税等の不合理な税制の撤廃に使うほかは、全額社会保障制度の維持に使い、年金、介護保険、医療保険などの社会保障制度の信頼性を高め、将来も安心して「生活」できる社会を目指します。

また、国民皆保険の医療制度はいかなることがあっても堅持し、診療報酬のプラス改定を目指します。中東遠地域の医師・看護師を確保し、救急医療体制の確立に努めます。

介護報酬のアップなど、介護人材の確保をはかり、「介護職離職ゼロ」を目指します。介護人材の確保を図ったうえで、介護施設の充実により、介護離職ゼロを目指します。

● 子育て支援の充実

働きたいと思う女性が活躍できる社会を目指し、子育て支援を充実します。保育の質を落とすことなく、待機児童ゼロを目指します。保育士の大幅な待遇改善により保育人材を確保し、保育士不足を解消します。お子さんを生み育てやすい環境を作り、働きたいと思う女性が活躍し、「育児も仕事も」両立できる社会を目指します。

● 労働法規制の改悪に反対、安心して働く労働環境の実現

ホワイトカラー勤労者の労働時間に関する規制の改悪を断固阻止するとともに、違法派遣を根絶し、安心して働く環境を作ります。

● 災害対策の推進とクリーンエネルギーの実用化

中東遠地区の津波堤防構築に向け、全力を尽くします。学校のさらなる耐震化(建替え・根本的な改修)と民間住宅への国の支援の拡充を図ります。小水力、バイオマス、風力、地熱等々のクリーンエネルギー、再生可能エネルギーの実用化・普及に努めます。

● 農林水産業の再生・振興

日本型直接支払制度・戸別所得補償制度の拡充に努めるとともに、米価・茶価下落対策に努めます。「リーフでお茶を飲む習慣」の振興を図り、お茶の需要・消費拡大策を推進します。

農協法変更に伴う准組合員規制調査・員外利用規制調査にあたっては、地域の現状を踏まえた調査となるよう行政を監視するとともに、「地域インフラとしての農協」がいきいきと活動できる環境づくりに努めます。

● 協同組合・NPOの振興と「新しい公共」の拡充

自立した個人の助け合いの組織である協同組合の発展に努め、「協同組合憲章」や「協同組合基本法」「ワーカーズコープ法」の成立に全力を尽くします。

NPOや協同組合などの「新しい公共」分野の拡充のため、税制改正をはじめとする政策を実現します。



本会議にて質問



今年も府八幡宮の祭典に志組の中老として参加



新東名磐田豊岡スマートインター設置の要望に国土交通省等を訪問



川勝県知事に要望



参議院議員 平山佐知子さん よりメッセージ

磐田市出身の国会議員として二人で連携をしっかりと持ち、国・県・地域の為にお互いしっかりと頑張りましょう

メールマガジン配信中!!

小山のぶひろの日本や郷土への想い、政治への熱い想い、活動報告などをメールに託してお届けいたします。

PC版 <http://www.n-koyama.com/mail> にアクセス



携帯版 n-koyama@67827.r.at-ml.jp または

QRコードから空メールを送信で登録